

◆ パトロールの実施事例

〔平成 23、24 年度版〕

● 警察OBによるパトロールを実施している事例

(1) 警察OBの専門性を生かして高い不法投棄抑止効果を実現（埼玉県飯能市）

不法投棄という法律違反行為を抑止するためのパトロール業務であり、事件性も含まれることから、それに精通したパトロール員を配置し、地元警察署と連携して対処することが必要と考え警察OBを採用されています。パトロールは警察OBの非常勤職員2名により平日の昼間に実施。警察OBの専門性は、パトロールコースの設定や証拠資料の発見に大いに役立っているとのこと。実際に、不法投棄犯罪の立件数が多く、投棄者が特定されたとして報道で大きく取上げられた事例もあり、不法投棄の抑止に成果を上げています。



パトロール員 監視カメラ設置中

(2) 警察OBによる効果的な不法投棄防止指導を実施（千葉県佐倉市）

不法投棄の指導対象者に反社会的勢力関係者等が含まれる場合があること、警察との連携を取り易くすること等のために警察OBを採用しています。パトロールは警察OBである不当行為防止指導員3名中2名による週5日の平日パトロール、及び不当行為防止指導員1名市職員1名の2名による月1回の休日パトロールを実施しています。指導の現場では、時として指導対象者が威圧的な態度をとることがありますが、パトロール員が警察OBであることから毅然とした対応ができ指導効果も高いとのこと。

● 市民によるパトロールを実施している事例（滋賀県野洲市）

不法投棄の早期発見を図り、不法投棄の未然防止と啓発活動に努めることを目的に、市長名にて委嘱した市民14名によるパトロールを実施しています。1ヶ月間に2回以上（1回当たり2時間以上）指定地域を巡視し、巡視後に活動報告として巡視状況報告書を毎回作成しています。また、巡視時の腕章・ベストの着用及び巡視車への「不法投棄監視パトロール中」マグネットの貼付や、不法投棄多発箇所への不法投棄禁止看板の設置等で啓発活動を行っています。



巡回時の腕章とベスト



車両用マグネット

- **パトロール員が不法投棄物の回収を行い不法投棄の常態化を防いでいる事例
(東京都あきる野市)**

河川や山林など不法投棄されやすい場所を重点地域としてパトロールを実施しています。投棄物を見つけた場合はパトロール員が迅速に回収作業を行い、第二、第三の不法投棄を未然に防いでいます。

- **不法投棄されやすい夜間にパトロールを実施している事例 (福岡県福岡市)**

不法投棄常習地域 23 箇所を重点監視地域とし、ほぼ毎日夜間パトロールを実施しています。不法投棄常習地域を集中して監視することで、抑止力の強化や投棄物の速やかな回収、投棄者の特定に繋がる有力な情報の警察への通報などにより、不法投棄件数・処理量の削減に繋がっています。

- **パトロールしていることを目立たせて不法投棄の発生を抑制している事例 (京都府舞鶴市)**

市街地周辺部や山間部など不法投棄多発ポイントを繋ぐ 6 つの巡回コースを設定しパトロールを実施。夜間、昼間に分けた 2 班体制によるパトロール実施回数は、年間延べ 622 回となっています。

不法投棄の発生抑制に主眼を置き、パトロール車両に回転灯の装備や「パトロール中」の表示を行うなど、投棄者へのアピールや市民への不法投棄防止啓発を図っています。



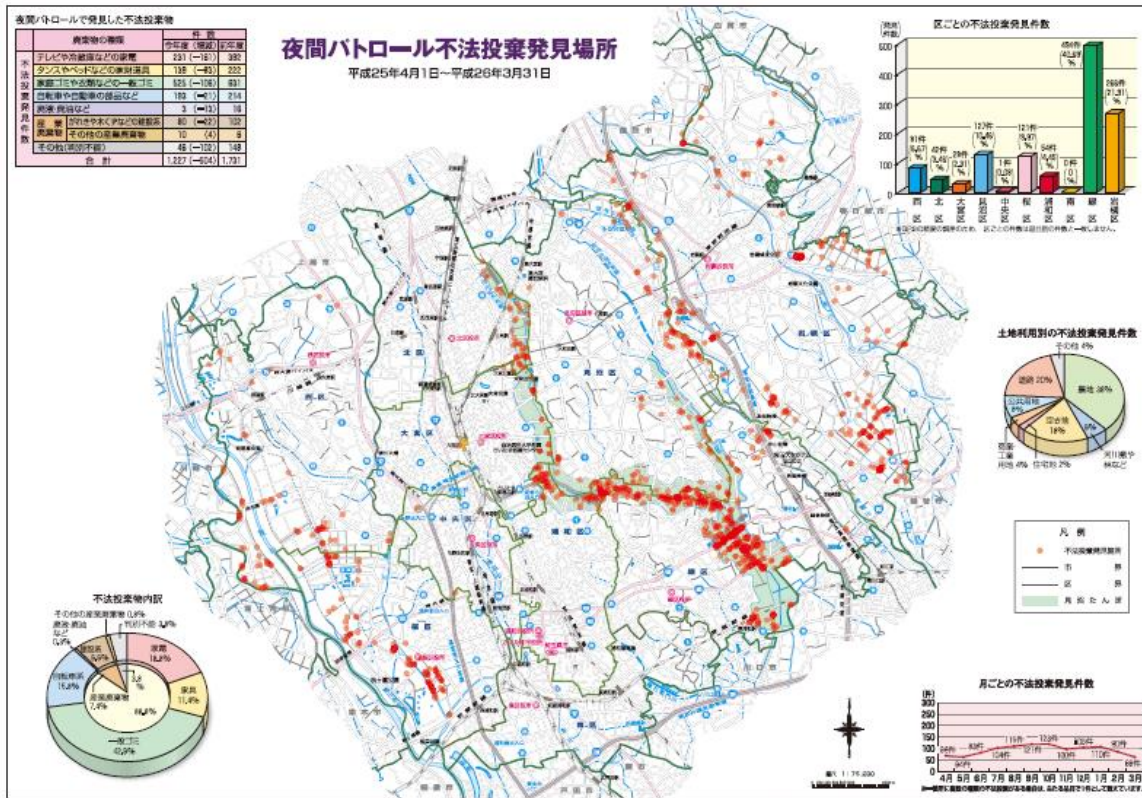
[平成 26 年度版]

- **不法投棄データの視覚化により効果的な防止策を立案・実施している事例
(埼玉県さいたま市)**

2 チーム (1 チーム 2 名) にて、1 年 365 日不法投棄されやすい深夜・早朝の時間帯に不法投棄多発地域を重点的にパトロールすることで不法投棄未然防止や不法投棄物の早期発見につなげています。

本パトロールでは、携帯電話の GPS 機能による位置情報をデータベース化し「不法投棄マップ」として視覚化することで、不法投棄多発地点等の分析や効率的なパトロールルート策定及び監視カメラ・防止看板の設置場所の検討に用いることにより、効果的な防止対策を講じています。

なお、防止対策の効果により、同市での特定家庭用機器廃棄物の不法投棄量は、平成 26 年度は前年度比約 20%削減され、平成 24 年からの 3 年間でほぼ半減となりました。



不法投棄マップ(赤点箇所:不法投棄発見場所)